No.53
NEWS LETTER
The Friendship Force of Aichi
2002年9月発行

≪ FF は give and give の精神で ≫

“give and take”という言葉がありますがFF活動における精神は**”give and give”**であるということが私にはだんだんと分かってきました。つまりAさんがBさんを歓待する。そして、Cさんは Dさんを歓待する・・・・という風に世界中にFFが広がってきたのです。**”take”** を望まなくても**”give”** 精神だけで組織が発展するという見本をFFが示しているようです。

1999年6月　デンバー・サラソタ交換　ED：　岩原　磯治

≪愛知クラブへのメッセージ≫

ソウルクラブ会長：K.C.Hwang

愛知クラブの皆様お元気でしょうか。

10月の訪韓を控え色々な準備と共にやはり一応海外旅行なので期待と同時に一抹の不安とで複雑なお気持ちかと存じます。しかし星野団長を始めこの春アジア大会へいらっしゃった皆様から既にお聞きのことと存じますが、名古屋空港から1時間一寸で到着できるソウルは北海道へ行かれるのと少しも変わりなく軽い気持ちで行ける所です。それに私どもソウルクラブ会員一同は2年ぶりの再会にそれこそ胸をわくわくさせながら皆様のご滞在に不都合のないように万全の準備を進めているところです。

どうかご心配なされずにお隣の町へ来られる気分でいらっしゃってください。韓国の10月は1年中で一番気候の良い時です。ワールドカップ共催で盛り上がった日韓友好の気運を皆様のご訪問で一層発展させると共に、2年間にわたる愛知、ソウル両クラブの交流訪問の歴史に有終の美を飾ることが出来ますようお互い努力いたしましょう。では首を長くしてお待ちいたします。御機嫌よう。

≪ソウルクラブ交換の意義≫

ED:星野卿市

日韓国民交流年に韓国ソウルクラブを訪問することになり、その意義と責任を強く感じます。わが国と韓国は1000年以上にわたり長い交流の歴史がありますが、その歴史の中には不幸な出来事もありました。特に前世紀は両国にとって悲しい、困難な時代でした。

「近くて遠い国」と言われてきました。

近年、わが国から大勢の人が低料金の観光にひかれて、買い物観光客として訪れているようですが、単に取引上の関係に過ぎず、人と人との心のふれあいは希薄なものでしょう。

過日、キプロスの仲間を名古屋空港に見送りに行ったとき、赤い野球帽に大きな字で、ジャパンと入っている帽子をかぶっている子供たちのグループに会いました。彼らに、「何処へ行くの」と尋ねると、野球の試合で韓国に行くとのことでした。彼らはみんな喜びを身体中一杯にして誠に楽しそうでした。

彼らは野球を通じてすばらしい交流をしたことでしょう。私たちも彼らに負けないよう有意義な交流をしたいものです。

≪暑い夏の愛知でキプロス交換≫

キプロス交換を終えて　　ED: 加藤紀子

大変な暑さの中、無事にキプロスとの交換を終了することが出来ました。これは偏に皆様のご協力の賜物と感謝いたしております。真夏の受け入れは初めての経験で失敗も多かったのではないかと案じておりますが、帰国前夜、彼らとの心温まる会話はこの交換が成功を収めたことを我々に確信させるに充分な出来事でした。2004 年の再開を約束し空港より飛び立っていきました。

キプロスの友　　**久田直子**

久しぶりのホストで少々緊張気味、それにこの暑い夏に本当に楽しんでいただけるのかしらと不安半分。でもキプロスってどんな国なんだろうと期待半分。アンドゥルーラは背が低く隣のおばさんタイプ、思わず最初からハグ。こんなに初めから打ち解けた人は初めてでした。偶然にも年も一緒だと分かりますます親近感が増していきました。おしゃべりで夫に大変気を使っている、洗濯干しさえ手伝ってもらいました。ダイキスはイメージどおりのギリシャ人。元教師ということで、日本の教育システムに大変興味があり、あちこちで質問をしていました。キプロスとトルコとの難しい関係も一生懸命話してくれました。いつも FF のホストをする時思うことです。お迎えするまでは、緊張でドキドキ。でもたった一週間でその国の生活とアンバサダーの人生を楽しみ、感じることが出来るのです。そして、お別れをするときはもう日本の親戚になっている私たち。それぞれのホストが、その家のスタイルで楽しむことが出来るのも FF のもう一つの良さでしょう。

初めての体験　“露天風呂”　　**土井和子**

キプロスの人たちを“日本ならではの体験が良い”との沢野井さんの発案で、長野県平谷村の露天風呂“ひまわりの湯”に連れて行きました。沢野井さんが運転、私が迷ナビゲーターです。もちろん、混浴ではないので、加藤さん夫妻とアンバサダーも一緒に行ってもらい男性は加藤俊夫さんにお願いしました。どうも理解しにくいらしいので、事前説明をしっかりしたつもりですが、現地では**“え？”**という顔をされ、少し戸惑った様子です。イオアンナは私たちと同年代のせいか、すぐにとけ込み他のお客さんとも和気あいあいで結局一番長く入っていました。何事にも日本の習慣に馴染んで、私たちにはとても楽しかったと言ってくれました。実際はどのように感じたのか分かりませんが、とてもいい体験になったことは確かなようです。

キプロスのアンバサダーを迎えて　佐藤みち子

今まで私にとってキプロスはほとんど未知の国でした。我が家には気さくで元気な従姉妹の二人が来ました。二人は、来日して見聞したものは大抵興味を持ち喜んでくれたようですが、中でも一番ウエートを占めていたものは買い物のようでした。高価なパール、染付けの大皿、掛け軸、百円ショップと沢山の買い物をしておりました。パールは 16 歳のお嬢さんの結婚の時の贈り物として用意しておくとか、大皿と掛け軸は新築の自宅を飾るものとして、その他は友達、近所、親戚へのお土産とか、それぞれ目的を持った買い物でした。あの買い物を通じて彼女たちは確かに日本の **Something** をキプロスに持ち帰ってくれたと信じております。暑い中、何度か台所に立ってくれました。「キプロスに来て」「すぐに来て」と何度も言い残して帰って行きました。彼らと共に生活してキプロスは未知の国ではなくなりました。

奈良クラブと愛知クラブのはじめての国内交流

6 月 13 日、良い天候に恵まれて、元気いっぱいの愛知クラブのメンバー23 名は奈良を訪れました。大西会長のご案内で、興味深い、楽しい歴史のお話を聞きながらの散策と昼食会、奈良クラブのみなさんとの暖かい友情のなかですばらしい交流会を持つことができました。
次は愛知でお会いしましょう。

”愛知を語る”勉強会が必要ですね

英語のヒント（２）

加藤八郎

≪About Our Club≫

Since 1977, we have had the following inbound and outbound exchanges:

Year	Inbound	Outbound
1997	Sarasota, USA	Minnesota,USA
1998	Bogota,Columbia SpringHill,USA	Australia and New Zealand
1999	Warszawa and Olsztyn, Poland	Sarasota and Denver, USA
2000	Irkutsk, Russia Seoul, Korea	Magdeburg and Varel, Germany Arizona,USA
2001	Los Angeles, USA Hertfordshire,UK	Pecs, Hungary Bristol, UK
2002	Cape Town, South Africa Cyprus	Seoul,Korea

≪奈良クラブとの交流会に参加して≫

鈴木　サヨ

奈良クラブのご案内で、興福寺、志賀直哉邸、新薬師寺、春日大社等に行きました。世界遺産、国宝、重要文化財等、貴重な建築、彫刻、庭園などに触れ大いに感動しました。地理に詳しい地元の方たちとの散策はすばらしく、特にささやきの小道は木立が並ぶ美しい苔道で、ロマンを誘う素敵な散歩道でした。当時の貴族や万葉人が一句　詠みつつ行き交う、優雅な天平文化に思いをはせました。奈良クラブは新しく、2 年で会員 60 名、頼もしく思います。愛知クラブも設立当時の会長様のご努力、それを支えた会員の皆様、そして豊かに実らせ充実させている今日。有意義な楽しい交流でした。

≪山歩き≫　　**西村貴美子**

登山の醍醐味は頂上でのすばらしい眺望であると言われますが実際はそう甘くなく苦労して登っても上は雨ということはよくあります。山小屋での男性二人の会話「三度目の登山だったけどまた降られちゃったよ」「じゃあ、又おいでってことだね」。かくのごとく山はそう簡単にその雄姿を見せてはくれません。数年前北アルプスを縦走した時の事です、明日は下山という最後の日、蝶ヶ岳の山小屋で台風のため二泊することになってしまいました。二晩目の夜半、風が収まり空が晴れ台風一過、**満天の空には降るような星**が、そして翌朝は 360 度の大パノラマ。北アルプスの山々は勿論、遥か彼方に八ヶ岳連峰、富士山も雲海の上に望むことが出来ました。私の 6 年の登山歴で最高にラッキーだった時です。今日も、また多くの人が期待で胸を膨らませて登山していることでしょう。

第 7 回東海ブロック会議

加藤八郎

第 7 回東海ブロック会議が 8 月 31 日岐阜クラブ主催のもと、ぱるる岐阜において開かれた。今までにない盛況で支援委員会の石井さんを加え計 42 名の参加があった。最初にブロックの名称を参加クラブが広域になったため、東海ブロックから中部ブロックに改称してはどうかとの提案がなされ、承認された。会議は各クラブから前もって提出された議題に基づいて会員増強の方法、クラブの運営、受け入れ、渡航の問題点などについて活発な意見が交わされた。支援委員会の石井さんより FFI に日本からの意見が思うように伝わらないため､来年より日本から 4 名のフィールド・レプレゼンタティブを出すことになり、各ブロックから 1 名ずつ推薦するよう依頼があった。中部ブロックとしては、会長会議を開き適任者を推薦することになった。また、FFIへのフィーを15ドルに値上げする問題については高すぎて応じられない旨を FFI へ伝えてもらうよう要請した。次回のブロック会議は三重クラブの担当で来年 11 月中旬に予定。

2003 年度の交換予定

受け入れ：4 月　Arizona club, USA
　　10 月　Raanana club, Israel
渡　航：8 月　Irkutsk, Russia

＊2002 年 10 月イギリスの受け入れは
　キャンセルになりました

写真上　**コーンウォールの城にて**　白木美佐子

重い鉄の扉が静かに開かれると薄暗い城の中から煌びやかに着飾った淑女（愛知出身？）と騎士が浮かび上がってきた。西に傾く夕日と共に美味しいワインとお喋り、やがて晩餐会へと私達を誘っていった。ダンスパーティーが始まった。素敵なナイトがダンスの申し込みに､“**私に？**”真夏の夜の夢でした。

FF フェスティバルに参加して

大木捷代

イギリスが世界に誇るアーサー王。偉大な伝説と言えども名だたる政治家、芸術家たちの憧憬の人物。その謎に迫る“アーサー王フェスティバル”が王の生誕地・イングランドのコーンウォールで、6 月 5 日～9 日プラス 6 泊ホームステイで開催された｡募集人数 120 名のところ、愛知クラブから 5 名、日本から総勢 14 名参加、他にオーストラリア、韓国、アメリカ、ブラジルの面々。この企画は王ゆかりのカントリー、コーンウォール・デボン・サマーセットの３クラブが 3 年間かけたとあって中世騎士道時代へ誘われタイムスリップ！　紳士の国、大人の国イギリスがこの時代に起因していることも発見！　FF の年間行事のフェスティバルもなかなか魅力的です。来年はみなさんもぜひ参加されませんか。

新入会員紹介

日比野　みち子（東海市）青山さんの紹介
高橋　正徳　寿香（名古屋市北区）インターネット
高橋　月子（岐阜県本巣郡）小川さんの紹介
土居　陽子（名古屋市緑区）再入会

編集・発行　〒468-0045 名古屋市天白区野並 4-48
ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・愛知　Tel: 052-895-4765　Fax: 052-895-5272